

# だい好きな本を いっしょに じっくり読もう

総合的な図書館ボランティアが盛んな十和田市



十和田市立三本木小学校 図書館ボランティア

## この取組を紹介したわけ

十和田市での読み聞かせ活動率は、小学校11校/21校 52.4%です。さらに、実施校の内、6校が図書館支援も行っています。読み聞かせ活動を実践している市町村において、総合的な図書館支援を行っている学校数が目立つのが十和田市です。

十和田市において、総合的な図書館支援活動はどのように広がりをみせたのか。どのような活動を行っているのかを三本木小学校を例に紹介します。

## このような活動です

三本木小学校では、現在24名が図書館ボランティアとして活動しています。そのうち保護者が16名、他は卒業生の保護者や活動に賛同していただいている方々です。活動は主に学校の図書委員会の支援ですが、独自のものもいくつかあります。以下に活動内容を紹介いたします。

活動	曜日・時間	内容	その他
貸し出し	毎週 火・金曜日 午後2時15分 ～4時	・本の貸し出し・返却 (コンピューター2台使用) ・本の修理 ・図書室でのマナー指導 ・新着図書を受け入れ手伝い	・日誌に入室者数・連絡事項を記入  ※昼休みは図書委員会 が担当
読み聞かせ	毎週金曜日 8時 ～8時20分	・各自の選書で、各教室1～2名で読み聞かせ。 (読む本の冊数は時間内で自由。) ・本や作者の紹介	・日誌に担当教室、書名、感想などを記入
図書室装飾	年4回程度 (季節の変わり目に) 午前10時 ～12時	・図書室の窓や壁面に季節の作品等をレイアウト。	
読書集会の読み聞かせ	年1回(12月) 15分程度	・全校児童対象に生演奏やプロジェクターの効果をつけた読み聞かせ	・練習は1回2時間を3～4回、11月頃から準備

活動	曜日・時間	内容	その他
研修旅行	年1回 10月頃 4時間程度	・ボランティアの学習と親睦をかねての日帰り旅行。	
読書週間～架作り	年1回昼休み 2週間程度	・シーラーをつかった乗作りの手伝い・指導。	※主体は図書委員会なので準備や片付けの手伝い
情報紙「つみき」発行	年4～5回 不定期	・保護者へ向けての活動報告・情報発信。	

毎年4月にボランティア募集のプリントを配布し、5月の組織会で、名簿と活動計画を確認します。そして、各活動毎に班長を決め、班長中心にみんなで協力し合って進めていきます。3月に反省会をし、次年度の代表のみを決めて、1年の活動を終えます。全員が顔を合わせるのは、5月と3月の会議の2度だけですが、連絡袋・メール・FAX等を駆使し、コミュニケーションをとるようにしています。



本の貸し出しの様子

学校の日課表では、毎朝8時から10分間の朝読書の時間が設定されています。上記のように週2回の定期的な貸し出し業務を行っているので、児童が常に新しい本を借りておくことができます。毎朝の読書の時間に、本を選んだり、読み終わったので読む本がないなどということがなく、三本木小学校の朝読書を充実したものとするためには今では欠かせないものとなっています。



本の修理

## このように進めています

この活動は特別な資格とか講習を受けなければならないということがありません。誰でもその気になればできるということをアピールし、ボランティアの募集をします。

活動(貸し出し・読み聞かせ)の計画は各学期毎に実施予定表を事前に配布し、活動できる日を記入してもらいます。それをもとに一覧表を作成して調整しています。ボランティアの方のお子さんが病気になったなどの理由で急に活動できなくなることもあります。無理せず、できるときにということを確認していますので、誰かに連絡すればよいということになっています。

予算がないので、様々な消耗品などは学校の図書部・図書委員会から材料をいただきながら行っています。お金のかかる派手なものではありませんが、昨年度までのものを再利用するなど、工夫しながら図書室環境を作っています。いろいろなことに図書担当の先生方が相談に

のってくれるので、とても心強いです。

ボランティア日誌は、参加者、内容、感想などを記録します。日誌は、活動日に教務の先生から受け取り、帰りにまた教務の先生に返します。貸し出しのときは、クラスごとの来客数、子どもたちに連絡してほしいこと、活動で不具合があったことを記入し、学校に対応してもらいます。また、読み聞かせのときは、担当教室と書名・感想を記入し、次回以降に、読み聞かせの本を選ぶときの参考にしています。

貸し出しの時間には、帰りの会の前や、終わったすぐ後などに学級担任の先生がクラスの子どもをまとめて連れてきて、借りる本のアドバイスをしたり、借り方や返し方のマナーなどを指導してくれています。

図書館ボランティアを進める上で欠かせないのが、学校との協力です。

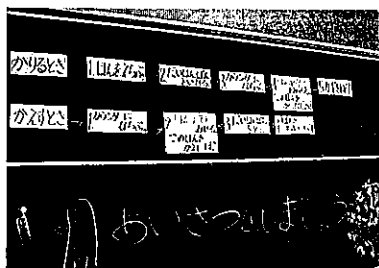
三本木小学校では、朝読書の時間の10分間は、先生方も教室にいて一緒に読書をします。図書館ボランティアの読み聞かせのときはさらに10分延長してもらい、先生も一緒にお話を聞いてくださいます。また、ボランティアが急に休んだときなどは、学校の教務主任の先生や学級担任以外の先生がピンチヒッターとなってやってくれます。子どもたちにとっては、これも楽しいコマのようです。決してボランティアに任せっきりにすることがないところがよいところです。

学校の分掌の中に「図書館ボランティア担当」として教務主任の先生が明確に配置されています。読み聞かせと貸し出しの分担希望調べや調整・日誌の管理は先生の方で担当してくれて活動し易いよう配慮していただいています。

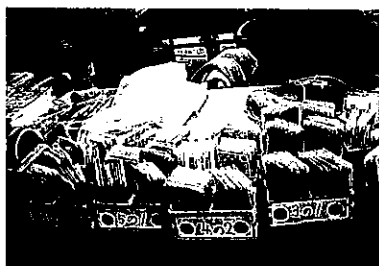
### ここが聞きたい お答えします

Q: 10年以上活動が続いていますが、どのようなことに気をつけて人材を確保していますか。

A: 誰でも、いつでも、無理しないで、しぼられないで、来られるときに、自分が楽しいと思う活動をということを心がけています。また、新しいメンバーが自分の居場所を作られるように、中に入れる雰囲気大切にしています。



本の借り方・返し方のマナー



図書貸し出しカード

### これまでのみちのり

平成8年、県の委託を受けた十和田市教育委員会が、図書館司書を講師に図書館ボランティア講座を年5回行いました。その講座を三本木小学校のPTA研修委員会のお母さん方が受講していました。十和田市教育委員会社会教育担当者が学校側に図書館ボランティアを組織してみないかと持ちかけ、十和田市教育委員会がバックアップするということで3学期から本の貸し出し・返却を開始しました。やってみたら楽しく、そう難しいことではない、学校としても助かるということが成果としてあげられました。そこで、さらに活発にしていきたいということから、平成9年度に保護者全員にボランティア募集の案内を出したところ、12～13人の応募があり春からスタートしました。平成12年には、読み聞かせボランティアもスタートしました。

図書館ボランティアを新しい取り組みとして広げていきたいと考えた十和田市教育委員会は、市内の学校のPTA研修会や参観日などで、三本木小学校の活動の様子をビデオで紹介しました。それから、学校主導あるいはPTA主導で図書館ボランティアが学校ごとに組織され、現在に至っています。県内の他の地域と大きく違うところは、十和田市の場合は、図書館ボランティアが先でその後読み聞かせボランティアが行われるようになってきたということです。



朝の読み聞かせの様子

### この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

#### ○成果

- ・子どもたちに本を読む習慣がついてきている。
- ・どのクラスも、絵のない長いお話でも集中して聞けるようになった。
- ・ボランティアをすると、生活に張りが出る。
- ・街で会った子どもとの挨拶やコミュニケーションが楽しい。
- ・学校に対する理解が深まった。
- ・ボランティア同士で情報交換ができる。
- ・ボランティア自身も本を読むようになった。

#### ○今後の活動

- ・これからも長く長く続けていきたい。
- ・保護者以外の地域の方にも参加してもらえるようにしたい。
- ・図書館ボランティアのOGで図書館支援や読み聞かせのサークルを作り、他の学校に行つて活動したりして、他校のグループとの交流を図りたい。